

学校法人 松山東雲学園 中期計画 2024年度～2029年度（大学・短期大学）

ビジョン：建学の精神を踏まえ『地域に必要とされる学園に』

中長期目標：満足度の向上を通して選ばれる大学へ

中期目標	検討機関	アクションプラン〔事業計画〕	K P I〔成果指標〕	フェーズⅠ			フェーズⅡ【KGI】
				2024年度 目標値	2025年度 目標値	2026年度 目標値	～2029年度
Ⅰ.学修者主体の学びの実現	心理子ども学科	教育内容・方法、具体的取り組みの検討	正課外活動の可視化と評価の仕組みを構築し、DP到達度評価シートへディプロマサブリメントとして統合〔記入率〕	70%	80%	90%	90%
			準正課活動（正課外活動）の継続率	100%	100%	100%	100%
			学生のデバイス活用度〔活用率〕	50%	60%	70%	80%
			学生のデバイス活用効果の可視化〔汎用的技能項目の開発の提案〕	準備	実施	見直し	確定
			資格試験の受験対策のデジタル化・eラーニング教材の活用〔合格率〕	検討	全国平均	全国平均	全国平均以上
	保育科	授業評価アンケートにおける学生満足度の検証	授業評価アンケートにおける学生満足度の検証・分析	実施検討	満足度80%	満足度80%	満足度100%
		公務員（保育士・幼稚園教諭）就職率の増加	前年度との比較やキャリアプログラム受講者の検証・分析	実施検討	受験者合格率80%	受験者合格率80%	受験者合格率90%
	現代ビジネス学科	「科目間横断型プロジェクト—Genbiプロジェクト」を実施する。	実施状況	50%	60%	70%	100%
	食物栄養学科	2023年度に変更後の教育目的の検証を継続する	実施検討～検証の継続	実施検討	検証	検証	検証
		年度末学生アンケートで授業に関する満足度を測定し、満足度の向上に努める。	測定項目の導入検討～実施検証し、2026年度満足度90%を目指す	N/A	満足度80%	満足度90%	満足度90%
		入学者に対して栄養士資格取得者数80%以上を維持する。	栄養士資格取得者数80%以上を維持	80%以上	80%以上	80%以上	80%以上
	教務部	カリキュラム（共通カリ含む）のとりまとめ 学修成果の可視化	e-portfolioの実装	準備段階	準備段階	25%	50%
		学修者主体の学びの強化	アクティブ・ラーニング型の科目の開講率	大：73.6% 短：73.8%	75%	77%	80%
		遠隔授業の運営	遠隔授業の運用に関するルールの作成を2026年度までに完成	作成	作成したルールの運用	検証、再確認、完成	完成版の運用
	FD専門部会	①教育内容、方法の研修実施	①学修者主体の学びの展開について研修会の実施回数及び参加率	①年間2回以上実施及び参加率100%	①年間3回以上実施及び参加率100%	①年間3回以上実施及び参加率100%	①年間3回以上実施及び参加率100%
		②授業改善のためのアンケート項目の修正	②授業改善のためのアンケートの修正を2026年度までに完成	②項目の見直し	②修正した項によるアンケートの実施・分析	②再度修正し完成	②修正したアンケートの実施
		③授業改善のためのアンケート回答率向上	③授業改善のためのアンケート回答率	③大学50%以上 短大60%以上	③大学55%以上 短大65%以上	③大学60%以上 短大70%以上	③授業改善のためのアンケート回答率大学・短大共に70%以上
		④学修時間・学修行動アンケート回答率の向上	④学修時間・学修行動アンケート回答率	④大学40%以上 短大80%以上	④大学50%以上 短大83%以上	④大学60%以上 短大85%以上	④大学70%以上 短大85%以上
	IR推進委員会	測定指標の検討と分析 ・各種の学生へのアンケート目的を「毎年入学定員の確保が可能になるような選ばれる学科・専攻、および大学・短大になるために」を大前提とし、学生側からの視点に切り替えたアンケート指標に改変する。 ・集計分析に関しては、上記の目的を達成するために必要となるデータの抽出に力点を置く。「公開」が目的ではない。	①新入生アンケート〔A測定指標／B集計分析／C関係機関への改善提言〕 ②授業評価アンケート〔A測定指標／B集計分析／C関係機関への改善提言〕 ③年度末アンケート〔A測定指標／B集計分析／C関係機関への改善提言〕	①A・B・C ③Aに着手	③B・C ②Aに着手	②B・Cに着手	経年変化を重要視するのではなく、その時点での課題を解決するための測定指標を策定し、関係機関へ提言することをサイクル化する。
	教員評価委員会	評価項目、ウエイトの検討	「学修者主体の学び」についての評価項目	N/A	70%	80%	

学生支援	2. 研究支援体制の充実	心理子ども学科	授業を設定しない日の検討など（助手・経理課による科研費等業務支援）	時間割の6限設定の可能性の検討	検討	試験運用	見直し	確定
				担当科目数の平準化の検討 〔正課科目数・学内非常勤科目数・しのめプラス担当科目数から総合的に調整〕	検討開始	試験運用	見直し	確定
				教員評価の自己評価票における科研費等の採択に関わる点数の見直し	検討	見直し	確定	確定
				競争的資金の申請件数の向上〔科研費等の申請数〕	研究日等の調整	5件	5件	8件
		保育科	授業を設定しない日の検討など（助手・経理課による科研費業務支援）	県内外における研究情報の発信件数または研究論集への投稿件数分析	（一人当たり）2件	（一人当たり）3件	（一人当たり）3件	（一人当たり）3件
		現代ビジネス学科	授業を設定しない日を設ける。	時間割作成の状況	100%	100%	100%	100%
		食物栄養学科	授業を設定しない研究日の検討	2025年度より導入を実施～検証する	検討	実施	実施検証	実施検証
		教育実践研究センター	研究助成制度の見直し	助成数	N/A	20件	25件	
		SD委員会	「愛媛大学テニュア教員育成プログラム」への参加案内	「愛媛大学テニュア教員育成プログラム」への参加延べ人数	8名以上	9名以上	10名以上	10名以上
		紀要・研究論集委員会	・紀要・研究論集への投稿件数の増加	・紀要・研究論集への投稿件数	紀要：8件 研究論集：8件	紀要：9件 研究論集：9件	紀要：10件 研究論集：10件	紀要：10件 研究論集：10件
			・学科・専攻の枠を越えた共同研究の実施	・教員同士の研究交流会の実施	検討	実施	実施	検証
	3. 教育環境の整備	教務部	教室の整備・管理	学会発表用のポスター印刷機の導入（布・A0）	検討	導入～実施検証	導入～実施検証	導入～実施検証
				アクティブラーニング教室の増設	50%	70%	90%	100%
				授業改善のための授業準備金の活用	準備（予算折衝）	試用	実施検証	
				出席管理システムの導入と運営	準備段階	30%	50%	100%
		学生支援部・総務	学生の居場所づくり・施設整備計画立案 学生コミュニティを活性化させ、学生満足度の向上、及び中退・退学比率の低減 ・学年学科専攻を越えた学生のつながりの場づくり ・ポイント制度の活用 ・学内での留学生と日本人学生間の充実した異文化交流プログラムの提供	・学生の満足度（整備後の施設・異文化交流プログラム実施後） ・中退・退学者数 ・ポイント制度奨励金採用定員充足率	・調査項目の検討 ・ポイント制度奨励金採用充足率70%	・施設利用満足度アンケート初年度 ・ポイント制度奨励金採用充足率80%	・施設利用満足度前年＋20% ・ポイント制度奨励金採用充足率90%	・施設利用満足度 80% ・ポイント度奨励金採用充足率100%
		情報メディアセンター	BYOD体制の確立に向けて 機器及びソフトの対応期限整理	BYOD対象学生数/全学生数	7%	56%	89%	2028年度に100%達成
	4. 課外活動の活性化支援	学生支援部	・学生の居場所づくりと連動したクラブハウスの改修もしくは移転 ・ポイント制度の活用 ・クラブサークルのアピールする機会と場の創設（リーダー研修）	・クラブハウス改修 ・ポイント制度奨励金採用定員充足率 ・アピールの機会と場の提供 ・クラブ加入率	・改修(移転)計画の検討委員会設置 ・ポイント制度奨励金採用充足率70% ・6回／年リーダー研修実施	・改修(移転)計画の遂行 ・ポイント制度奨励金採用充足率80% ・8回／年 ・クラブ加入率40%	・改修(移転)計画の遂行 ・ポイント制度奨励金採用充足率90% ・12回／年 ・クラブ加入率50%	・改修(移転)計画の遂行 ・ポイント制度奨励金採用充足率100% ・12回／年 ・クラブ加入率50%
	5. 学生の進路支援	キャリア支援部	学生の希望進路への就職・進学等支援の強化	①就職率（就職者／就職希望者） ②進路決定率（就職・進学決定者／卒業者）	①100% ②90%	①100% ②90%	①100% ②90%	①100% ②90%
	6. 学生への合理的配慮	教職協働協議会	基本方針の見直し	基本方針の見直し、基本方針の周知徹底	見直し、周知	周知徹底		適正な運用
			相談体制の整備、専門性向上に向けた研修の提供	相談員の配置等の検討	検討、研修	検討、研修実施	研修実施	教職員の意識向上
		心理子ども学科		合理的配慮手段のデジタル化・オンライン化〔普及率〕	適性科目の調査	60%	80%	100%
		保育科	資格取得に向けた支援	資格取得率	80%	100%	100%	100%
			学習困難な学生に対する履修計画の支援	個別の履修計画の作成	100%	100%	100%	100%

	現代ビジネス学科	合理的な配慮が必要な学生の社会的障壁を取り除くことにより、安心・安全な学生生活を送り、修学的な成長につなげるような支援を実施する。	本学の「支援の流れ」に沿った支援計画を立て支援を実施する	100%	100%	100%	100%
	食物栄養学科	受験時・入学前・入学後における対応可能な支援の保護者や本人への説明	入学時アンケートの作成	準備・検討	実施検証	実施検証	実施検証
		受験時・入学前・入学後における対応可能な支援の共有	事例集の作成	準備・検討	実施検証	実施検証	実施検証
		卒業に向けた支援	卒業率100%	100%	100%	100%	100%
		就職先の支援	就職率100%	100%	100%	100%	100%
	学生支援部	合理的配慮学生の、「社会的障壁」を取り除くことにより、安心・安全な学生生活を保障するとともに修学的な成長につなげる	(仮称)「〇〇〇〇」合理的配慮を統括する専門員の配置、専門部署の立上げ、運用	・専門員の確保 ・専門部署の立上げ	専門部署の運用	専門部署の運用	専門部署の運用
	入試部	合理的配慮が必要な受験生の事前把握	受験時及び入学後の配慮依頼の掌握	100%	100%	100%	
			受験時における合理的配慮の実施	100%	100%	100%	
合理的配慮が必要な受験生を踏まえた入試評価方法の改革			検討	実施			
キャリア支援部	要支援学生に関する就労支援の情報収集と関係組織・部署との連携による就職支援の充実	合理的配慮を要する学生の就職率	100%	100%	100%	100%	

	7. 安定的な学生確保	心理子ども学科	数値目標設定、達成のための手段	学科のアピールポイントの効率率〔入学時アンケートの選択理由〕	65%	75%	80%	80%以上
		保育科	入学者アンケートの分析	定員充足率	80%	90%	90%	90%
			オープンキャンパス参加者の検証・分析	オープンキャンパス参加者数	100名	150名	150名	150名
		現代ビジネス学科	入学志願者層に向けた広報活動を積極的に実施する。	定員充足率	70%	80%	90%	100%
		食物栄養学科	定員確保	定員確保80%	定員確保80%	定員確保80%	定員確保80%	定員確保80%
			オープンキャンパス参加者数の安定確保	オープンキャンパス参加者数 延べ80人	オープンキャンパス参加者数 延べ80人	オープンキャンパス参加者数 延べ80人	オープンキャンパス参加者数 延べ80人	オープンキャンパス参加者数 延べ80人
			就職率	就職率100%	就職率100%	就職率100%	就職率100%	就職率100%
		入試部	入試制度改革	入試区分・評価方法の改革	情報収集	検討	実施	
			学生主体のオープンキャンパスへの転換	学科教員の担当業務の縮小	現状ママ	アテンド業務削除	学科説明削除 (学生による学科説明へ移行)	模擬授業のみ
				学生の推薦による模擬授業	現状ママ	3月7月に実施	半分の回で実施	全回とも学生の推薦授業
				参加者中の出願者（入学者）比率の向上	現状数値把握	10%向上	さらに10%向上	
			新サイトから中高生・新規しののめ応援団の獲得	投稿数目標	個人20名 組織15 総数100本	単年度200本	単年度400本	
				本サイトへの流入数	昨年ユーザー数の10%UP	昨年ユーザー数の20%UP	昨年ユーザー数の20%UP	
			SNSによる学生募集	閲覧数・フォロワー数、投稿数を数値目標化し、バズり動画を目指す	公式SNS フォロー総数2000名	公式SNS フォロー総数3000名	公式SNS フォロー総数5000名	1本だけでも閲覧数1万を超えるバズり動画（その後年1～2本）
				DMによるコミュニケーション	教職員のみでスタート	一部の学生もスタート	DM3往復で出願者獲得10名	
				WEB広告からの流入者獲得（CV数目標）	300（5末178）	500	800	
		8. 外部環境分析（3C分析等）を踏まえた教育内容の見直し	心理子ども学科	各学科・専攻の”うり”の策定	公務員試験希望者の合格率の向上	20%	25%	30%
	小学校または特別支援学校の教員免許の取得率の向上				—	—	？%	？%
	社会福祉士国家試験受験希望者の合格率の全国平均への到達と平均の維持〔維持率〕				全国平均到達	100%	100%	100%
	MDASH認定率の維持率				100%	100%	100%	100%

保育科	各学科・専攻の” うり” の策定 ①保育の仕事の魅力を広く発信	中学・高校生を対象にした体験授業数	10回	15回	20回	20回
	各学科・専攻の” うり” の策定 ②地域連携	研修講師・地域連携（学生ボランティア）参加率	80%	80%	80%	90%
現代ビジネス学科	専門分野の柱を明確にしたカリキュラムを構築する。また、産学官の連携による「科目間横断型プロジェクト—Genbiプロジェクト」を実施する。	Genbiサブリ	60%	70%	80%	100%
食物栄養学科	食物栄養学科の” うり” ①地域密着型教育	地域課題解決を目的とした連携先の確保	連携先5件/年	連携先5件/年	連携先5件/年	連携先5件/年
	食物栄養学科の” うり” ②多様な就職先	カリキュラム編成の検討	実施	実施・検証	検証	見直
		就職内定に関して満足している学生の割合	N/A	90%	90%	90%
	食物栄養学科の” うり” ③学生の総合的満足度の向上	卒業時に食物栄養学科に入学してよかったと思う学生の割合	N/A	80%以上	90%以上	90%以上
心理子ども学科	多様なメディアを高度に利用した授業の展開	遠隔授業（上限60単位オンデマンド方式等）への対応可能な科目の整備（科目数）	5科目	10科目	15科目	20科目以上
		履修証明プログラムの整備（サテライトキャンパスの活用検討含む）（履修者数）	準備段階	5名	10名	10名以上
保育科	多様なメディアを高度に利用した授業の展開	委託生以外の社会人受け入れ数	5名	8名	10名	10名
		委託訓練生の受け入れ数	4名	4名	4名	4名
現代ビジネス学科	「しののめ+」の開講講座を積極的に実施する。	参加者数	20名	25名	30名	35名
食物栄養学科	多様なメディアを高度に利用した授業の展開	科目等履修（栄養士必修科目以外の科目）のオンライン授業解放	検討	実施	検証	
	愛媛中央産業技術専門学校からの委託生の安定的確保	委託生の正規雇用での就職率	80%以上	80%以上	80%以上	80%以上
		委託生定員枠の充足率	100%	100%	100%	100%
		委託生の就職後の定着率	100%	100%	100%	100%
	高度教育訓練給付金制度の安定的確保及び利用拡大	入学者数に対する栄養士免許取得率	80%以上	80%以上	80%以上	80%以上
		高度教育訓練給付金利用者数	5名	5名	5名	5名
	特別選抜〔社会人〕入学制度利用者の確保	長期履修制度の周知	オープンキャンパス等てPRする	検証		
		社会人入学生数	5名	5名	5名	5名
入試部	ハローワークとの連携強化	訪問相談者の把握	100%	100%	100%	
	社会人を対象とした広報の拡大	広報拡大に伴う受験者数の確保	大学 各2名 短大 各3名	大学 各3名 短大 各6名	大学 各3名 短大 各6名	
教務部	社会人学生等受け入れ体制（教育課程・時間割・行事等）	体制の検討と論点の洗い出し	30%	50%	100%	100%
キャリア支援部	①しののめ＋受講者の増加 ②子育て支援員研修参加者からの入学生確保 ③しののめ人財バンク登録者への有効な求人情報等の発信	①地域からの増員数 ②社会人入学者数 ③求人情報等の情報発信数	①230名 ②入学者1名 ③年間50件			①250名 ②入学者1名 ③年間70件
心理子ども学科	高校生用の大学紹介及び模擬授業等の教材の整備	高校生用授業のオンデマンド化（整備科目数）	3コマ	3コマ	3コマ	9コマ以上
保育科	高校との連携事業における取り組みの強化	連携事業数	2校	3校	3校	3校
現代ビジネス学科	高等学校への出前授業や高校生との共同研究を実施する。	高大連携プログラムの実施件数	10件	15件	20件	20件
食物栄養学科	高大連携分野の拡大①連携校数の維持	連携校数	3校	3校	3校	3校
	高大連携分野の拡大②科目数増加の取り組み	科目数	2科目	検討	実施	検証
入試部	出張講義（模擬授業）の内容の厳選・充実	模擬授業実施校からの出願数の増加	模擬授業内容の検討	実施	出願数の検証	
	「総合的な探究の時間」支援プログラム	支援対象校からの受験者数の増加	新田高校からの受験者数の検証	検討		
教務部	公開授業数の増加	公開授業数	2025年度時間割作成	1科目	2科目	3科目



	学生支援部	クラブ活動連携 ・スポーツ特待生制度を活用した優秀な高校生の確保のための制度づくり ・クラブ設立基準の見直し、個々のニーズにあった活動場所の提供 ・学業や私生活の指導も含めた優秀な指導者の確保	・スポーツ特待生の志願者数 ・クラブ活動満足度	・スポーツ特待生3名以上 ・調査項目の検討	・スポーツ特待生5名以上 ・クラブ活動満足度アンケート初年度	・スポーツ特待生7名以上 ・クラブ活動満足度前年+20%	・スポーツ特待生7名以上 ・クラブ活動満足度80%
II. 新規市場の開拓	心理子ども学科		中学生向けのキャリア形成コンテンツ作成	準備段階	3本	3本	6本以上
			海外の提携大学の開拓と連携大学からの留学生の3年次編入の再検討〔入学率〕	準備段階	2名	2名	2名以上
			県外の指定校（短期大学・高校・キリスト教同盟校）への出張講義・オンライン授業〔入学率〕	1名	2名	2名	2名以上
	保育科	長期履修（3年制）の設置	対象学生数の分析	実施検討	実施	検討	見直し
	現代ビジネス学科	社会人のための履修証明プログラムを新たに構築する。国内留学生（県外から愛媛県内の高等学校に進学している生徒）のいる学校へ募集案内をする。例:三崎高校、長浜高校など「えひめの 愛顔留学」対象校など。	履修者数・志願者数	5名	5名	5名	5名
	食物栄養学科	「2年間の瀬戸内まつやま留学（仮）」。 愛媛・瀬戸内の食の魅力、健康に関するアクティビティを活用した全国での募集活動。	県外からの入学者数	検討・準備	検討・準備	実施	実施、検証
			社会人学生の入学時アンケート調査	検討・準備	検討・準備	実施	実施、検証
		公式HP等の広報の方法の改善。	社会人学生の入学時アンケート調査	検討・準備	実施	実施、分析	実施、分析
		こども園の保護者が参加できるサロンの開設。	参加者数、入学者数	検討・準備	検討・準備	実施	実施、検証
		県外学生のニーズ調査に基づく学生確保	県外学生のニーズ調査	検討	実施	実施	実施、分析
	入試部	連携短期大学からの編入学生の募集（大学）	系列及び連携短期大学からの編入学生の増加 系列（東雲短大）：6名 指定校短大：2名 それ以外：2名	10名	10名	10名	
		大学への編入学を見据えた学生募集（短期大学）	編入学先指定校の新規開拓	新規2大学	新規2大学	新規2大学	